

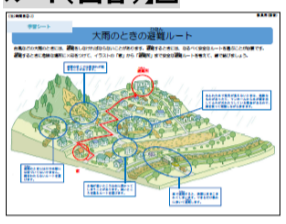

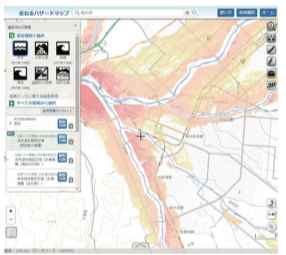
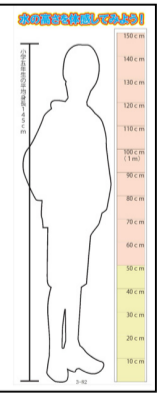

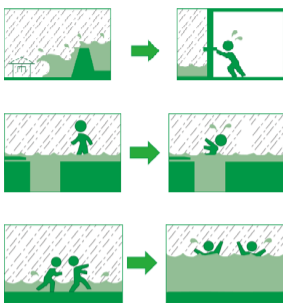




流れ	発問計画(例)(T:先生、C:児童)	指導上のポイント	教材	補足資料教材
導入(計5分)	<p>前時の振り返り</p> <p>※【②-1-4 水害から自分の命を守るための行動(板書用)]を見せる。□</p> <p>T:前回の授業では、水害から自分の命を守るために、水害に備えて、「情報の集め方」と「避難時の行動」を学びました。学んだことを思い出してみましょう。</p> <p>課題:水害に備えて、「避難する時に気をつける場所」を考えよう。</p> <p>T:今日の授業では、大雨が降り続いた時の「避難する時に気をつける場所」を考えましょう。</p> <p>※ワークシートを配る。◎</p>		<p>【②-1-4 水害から自分の命を守るための行動(板書用)]□</p> 	-
展開(計30分)	<p>I</p> <p>10分</p> <p>グループワーク①</p> <p>「大雨のときの避難ルートを考えよう」</p> <p>※【②-2-1 避難ルートのイラスト(グループ配布用)]を配る。△</p> <p>※【②-2-1 避難ルートのイラスト(板書用)]を見せる。□</p> <p>T:避難するときにはなるべく安全なルートを選ぶことが必要です。大雨が降って避難するときには、どんな場所に気をつけなければいけないでしょうか。(教師が指示棒で誤った例(上手、橋を渡る)を示し、子供に意見を求める。)</p> <p>T:学習シートのイラストの通ってはいけない場所に×印をつけて、「家」から「避難所」まで、安全なルートをグループで考えましょう。</p> <p>(C:川や水路には近づかない。/水に浸かりそうな場所(土地が低い場所)には近づかない。/土砂崩れが起きそうな場所には近づかない。)</p> <p>※【②-2-2 避難ルートのイラスト(回答)]を見せる。□</p> <p>(ひととおり意見が出たら、避難ルートを入れた回答を画面で見せて答え合わせをする。)</p>	<p>・イラストを使って避難するときどんな場所を通ってはいけないのかを考える。</p>	<p>【②-2-1 避難ルートのイラスト~大雨のときの避難ルート(板書用・グループ配布用)]□</p>  <p>【②-2-2 避難ルートのイラスト~大雨のときの避難ルート(回答)]□</p> 	<p>【②-2-1 補足教材:水害時のイラスト~水害時のまちの様子(ちがいがい)]</p> 
II	<p>15分</p> <p>※【②-2-3 防災マップ]を見せる。□</p> <p>T:みなさんは大雨の時にどこに避難するか知っていますか。大雨の時の避難所は市役所や町村役場が決めています。自分の家にいるときに避難する場所を確認しましょう。</p> <p>※【②-2-4 川があふれたときの水深]を見せる。□</p> <p>T:この地図は、大雨が降って、石狩川や天塩川の堤防が壊れたときに、どこまで水に浸かってしまうのかを示した地図です。</p> <p>T:このようになる前に早めに避難しないとイケません。</p> <p>T:学校やみなさんの家は何色になっていますか。</p> <p>T:この地図には、石狩川・天塩川とその主な支川以外の川があふれた場合のことは反映されていません。この地図で色がついていなくても、別の川があふれた場合には、水に浸かってしまう場合もあるので、注意が必要です。</p> <p>※【②-2-5 水深が分かる実物大イラスト]を見せる。□</p> <p>T:このイラストは小学校5年生の平均身長の子供の絵が描かれています。</p> <p>T:地図の黄色のところは、このイラストの黄色の部分と同じ深さの水が流れてきます。</p> <p>T:黄色のところは50cmまでなので、みなさんの膝よりも上に水が来るかもしれません。</p> <p>グループワーク②</p> <p>「まちに水が流れ込んだら何が起きるか?」</p> <p>T:50cmの水がわたしたちのまちに流れ込んだら、どんなことが起こると思いますか。歩いたり、泳いだりして逃げることはできるでしょうか。流れてくるのは水だけでしょうか。</p> <p>T:どんなことが起こるのかグループで考えて下さい。</p> <p>(C:道に水がたまっているから、移動できない。/木やごみが川から流れてきて、けがをするかもしれない。/側溝に足が挟まって、動けなくなるかもしれない。)</p>	<p>・地域の地図を用いることで、児童の住む地域(身近な場所)における、大雨のときに危険になりうる場所を学ぶ。</p> <p>・川から溢れた水はにごっていること、流れがあり、歩けなくなること、色々なものが流されてくるため危険であることが想像できるようにヒントを与える。</p>	<p>【②-2-3 防災マップ]</p> <p>・旭川開発建設部管内洪水ハザードマップ(旭川開発建設部)より検索</p> <p>【②-2-4 川があふれたときの水深]□</p> <p>・洪水浸水想定区域図(旭川開発建設部)</p> <p>・洪水浸水想定区域図(北海道)</p> <p>・ハザードマップポータルサイト(国土交通省)より検索</p>  <p>【②-2-5 水深がわかる実物大イラスト]□</p> 	<p>【②-1-2 大雨時の映像~大雨時のまちの様子]</p> 

<p>Ⅲ 5 分</p>	<p>水の力を見くびるな ※【②-2-6 水の力の映像】(約1分)を見せる。□ ※【②-2-7 命を守る防災教育イラスト(板書用)]を見せる。□ T: まちに水が溢れると大変なことになることが分かりましたね。 T: 水路やマンホールから水があふれだしたり、道が通れなくなって車が渋滞したりしてしまいます。 T: 大雨が降り続くと、土地が削られて流されたり、木が倒れて流されたりすることがあります。 T: 流されたものがぶつかって、橋を壊してしまうこともあります。 T: ひどいときには川の堤防が壊れて、まちに川の水が勢いよく流れ出てしまうこともあります 《特に重要な内容》 T: 大雨が降り続くと、いつもの様子とは大きく変わり、命に危険があることを忘れないで、早めに避難することが大切です。 T: 自分の身を自分で守ることを「自助」と言います。水害の時には水がまちに溢れる前に早く避難所に逃げるなど、「自助」が大切であることを覚えておきましょう。</p>	<p>・大雨が降ると、まちの様子が変わり、命の危険がある場合があること、早目に避難することが大切であることを気づかせる。</p>	<p>【②-2-6 水の力の映像～水の力を見くびるな】□ NHK そなえる防災 動画で学ぶ http://www.nhk.or.jp/sonae/douga/suigai0004.html クリップ NHK for School http://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005320238_00000</p> <p>【②-2-7 命を守る防災教育イラスト～洪水編(板書用)]□</p> 	<p>【②-2-6-補足教材：洪水から身を守るには～命を守るための3つのポイント(解説映像)】 http://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/movie/movie.html</p> <p>【②-2-7-補足教材：命を守る防災教育イラスト～洪水編(教師用解説)】 https://www.mlit.go.jp/river/bousai/library/pdf/illustr.pdf</p> 
<p>終末 (10分)</p>	<p>T: 今日学んだことを振り返りシートに書きましょう。 ※本時のワークシートの【学んだこと】に記入させる。</p> <p>まとめ ・川の水があふれる前に早めに避難する。 ・自然災害が起きるとまちの様子が変わり、命に危険があることもある。 ・避難する時には川や水路の近くや、土地が低い場所には近づかない。</p>	<p>・教科書のキーワードでもある「自助」について理解できるようにする。</p>	<p>—</p>	<p>—</p>

課題：水害に備えて、「避難する時に気をつける場所」について考えよう。

グループワーク (1)
避難する時に、危険となりそうな場所はどんなところ？
(児童からでた意見を記入)
記載例
・水があふれそうな所 → 川、用水路、池、沼
・土砂崩れが起きそうな所 → 山、がけ
・水が浸かっている所 → 水が浸かっている道路やそっこう
・水がつかりそうな所 → 低い土地

グループワーク (2)
まちの水深が50cmの時、どんなことが起きるか？
(児童からでた意見を記入)
記載例
・道に水がたまっているから、移動できない
・そっこうに足が挟まって、動けなくなるかもしれない
・水の力でドアが開かなくなり、逃げられないかもしれない。



↑石狩川があふれたときの水深
そうなるまえに避難するなど、自分で自分の身を守ること＝「自助」

まとめ：
・川の水があふれる前に早めに避難する。
・自然災害が起きるとまちの様子が変わり、命に危険があることもある。
・避難する時には川や水路の近くや、土地が低い場所には近づかない。

